

令和3年度事業報告

新型コロナウイルスは、2019年に発生して以来さまざまな変異株が生まれ、デルタ株に続きオミクロン株の感染が拡大し、感染者数も高止まりしています。また、このように社会経済活動が制限される中、ロシアのウクライナ侵攻により、世界情勢がますます不安定になり、その影響でガソリン代や生活必需品の高騰が続き生活困窮者が増加しています。

このような中、失業をされた方を対象とした生活福祉資金特別貸付は、貸付期間が延長され、貸付相談が674件あり、「緊急小口資金」「総合支援資金」の貸付は、延べ163件に上りました。

一方、本会の事業は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、規模を縮小せざるを得ませんでした。3回目のワクチン接種が終了された方の増加や重症者の減少により、外出制限も緩和されたため、開催の方法を工夫し事業を実施しました。

地域福祉事業においては、「第3期阿南市地域福祉活動計画」の策定の年度に当たるため、阿南市地域福祉活動計画策定委員会を4回、地区地域福祉活動計画策定委員会を延べ53回開催し、「つないで えがおの たのしいまち」の基本理念の実現のために、令和4年度から実施する計画を策定しました。また、第54回阿南市社会福祉大会は、入場制限を設けたうえで開催し、長年社会福祉に功労のあった方々の表彰に引き続き、俳人・阿南ふるさと大使 大高 翔氏の記念講演を行いました。なお、感染拡大防止のために、例年同時開催だった阿南市ボランティアフェスティバルは中止となりました。さらに、開催ができていなかった阿南市老人体育大会と阿南市障がい者体育大会を徳島県南部健康運動公園において合同で開催し、約300人の参加がありました。高齢者と障がい者の交流の機会になりました。

ボランティア推進センター事業は、新たに障がい者の外出を支援するためのガイドサポーター養成講座を開催し延べ83名の参加がありました。各種イベントの中止が続いており、ボランティアの相談、調整、派遣が十分に機能していないため、ボランティアの活動の機会が減少しています。今後はボランティアの活動の場を確保する方法を検討し、住民相互の助け合いの仕組みづくりに努めます。災害対策の取組としては、四国の右下防災旬間関連事業が宝田小学校で開催され、市内の福祉施設職員と合同で福祉避難所の開設訓練を実施しました。

介護支援サービス事業は、感染予防を徹底することで利用者の新型コロナウイルスの罹患者を防ぐことができました。県内で福祉施設のクラスター感染が発生していることから、研修会を継続的に実施しました。

阿南ひまわり会館の指定管理事業においては、本年度から3年間の指定管理が更新することが決定され、よりよい貸館業務を行うために利用者の意向を確認するためにアンケート調査を行いました。

結びに、コロナ禍において、改めて地域のつながりを基盤とした支え合いの地域づくりが重要であることが認識できたとともに、課題も多く見えた年でもありました。感染予防に配慮しながら次年度に向けて地域福祉の推進に努め、何ができるかを考え事業運営に取り組んでまいります。